

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0110510476		
法人名	医療法人中山会		
事業所名	グループホーム春桜		
所在地	札幌市厚別区「厚別東3条6丁目1-5		
自己評価作成日	平成25年10月1日	評価結果市町村受理日	平成26年2月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0110510476-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成25年10月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム前の花畑や玄関周りに、花を絶やさないうちに、ミニ菜園作りを行っています。入居者様はもとより近所の方々に楽しんで頂けるように工夫しています。
定期的なボランティアの芸能を楽しんだり、近隣の中学校の文化祭等に参加し、地域交流を楽しんでいます。隣接するパウロ病院での行事にも積極的に参加しています。
入居者様やご家族の希望・要望をケアプランに取り入れ、個別の外出・外泊等を楽しんでいます。医療面の支援体制が充実しており、ご家族の安心に繋がっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人が母体である「グループホーム 春桜」は、バス停から近く、協力病院や関連の小規模多機能事業所、デイサービス事業所と同じ敷地内に立地している。木々の紅葉などが楽しめる豊かな自然環境にも恵まれている。3階建3ユニットの建物内は中庭から光が入り、居間や廊下幅が広く開放的である。小さな畳敷ベンチやテーブルセットを配置してゆっくり休める場所もあり、心地よい空間になっている。開設12年ほど経過している当事業所は、利用者の尊厳を大切にすることを基本理念として実践している。協力病院との連結通路で24時間の医療体制や、災害時や緊急時にも隣接の関連事業所とも協力し、利用者・家族の安心できる環境を提供している。運営推進会議には、町内会役員や地域の消防団が参加しており、町内会とも災害時の協力関係は得られている。一方、法人の病院や当事業所を住民の避難場所としての提供も考えている。管理者は職員の育成を重視し、法人研修、内外の研修、勉強会を計画的に行い、職員の資格取得に向けて支援している。国家資格を持つ職員が多く、学びながら向上心をもって日々のケアを行っている。利用者の生活スタイルや思いを引き出し、家族の協力を得ながら個別に外出する機会を作り、利用者と一緒に考える姿勢で暮らしを支えている。

V. サービスの成果に関する項目(1Fアウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの理念に基づき日々のケアを実践しています。	法人グループホーム共通の基本理念を要所に掲げ、唱和やカンファレンスの中で理念を共有している。利用者一人ひとりの思いを一つでも実現するという、今年度の目標を職員間で作り、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の中で、地域の方とは挨拶をし、交流するようにしています。	区割り事情で町内会に未加入であるが、運営推進会議に役員の参加や協力がある。小学生の学習体験に協力し、中学校の合唱コンクールに参加している。芸能やオカリナ演奏など定期的なボランティア訪問がある。法人施設合同主催の夏祭りには住民を招待している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の方の見学会を行い、認知症の人の理解をして頂けるようにしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の内容をカンファレンスで話し合いサービス向上に活かしています。	敷地内の小規模多機能事業所と合同で会議を開催している。サービス評価結果や議事録を全家族に送っているが、代表参加になっている。会議で得た情報から、職員は防災センターでの火災、地震、煙などの訓練を受講し、体験を避難訓練に取り入れている。	テーマの年間計画を立てて事前の案内とともに、定期の会議案内にはテーマの意見をいただくような工夫で、意見・情報交換の場としての会議運営を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区役所に、事業所のケアを伝えています。	書類提出時に訪問し、担当者と関係を築くように努めている。区のグループホーム管理者会議の代表を受けており担当者と接する機会が多い。介護認定更新時や生活保護関係で各担当者には連絡をとっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実践しています。夜間帯のみ玄関の施錠を行っています。	「禁止となる具体的な行為」をマニュアルに明記し、法人研修や内外の研修で拘束の弊害を学び理解している。勉強会では主に精神面での抑制がないかを確認し、管理者は親しみの中にも職業意識をもって利用者とは対等な目線で対応するよう指導している。職員間の連携で玄関の出入りは自由にできる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスで話し合い、職員の学びを深める様に努めています。又、利用者の言動や身体チェックを、日々実践しています。		

グループホーム 春桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	理解する為、成年後見制度の研修があれば、参加するようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては、納得のいく説明を行い、利用者や家族の理解を得るように努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の中で利用者や家族の代表から意見を受けています。	家族アンケートの実施方法を、各ユニットと話し合い検討中である。家族の意見や連絡内容を個人毎に詳細に記録し、職員が共有して対応できるよう工夫している。家族には通信の他、行事や何かある時は、個別に便りで報告している。	率直な意見をいただく方向で家族アンケートを検討中なので、具体的な項目や収集の工夫で、更にサービスに活かせるような取り組みに期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスやリーダー会議で出された意見を反映させています。	毎月2回のカンファレンス兼ユニット会議で、ケアの確認や業務の改善などを話題にして意見を交換している。毎月のリーダー会議では各ユニットの意見を持ち寄り、管理者と対応を協議している。管理者との定期的な個人面談があり、自己目標達成度の確認や個人的な相談にも乗り、働きやすいように配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいや向上心を持って働けるようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を作るように努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ地域のグループホーム管理者会議、ケアマネージャーの会議等に参加し、ネットワーク作りに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の事前に必ずホームを見学して頂き、不安を取り除けるように、要望を聞いています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学の段階で本人や家族の話聞き質問には親切丁寧に答えています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望をよく伺い、必要としている支援やサービス利用の対応を行っています。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人の出来ない事や困っている事を理解するように努め、信頼関係を作るよう努力しています。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と常に連携をとり、その都度、本人の喜びや希望を叶えられるよう話し合いの場を持つよう支援しています。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の意見を尊重し、馴染みの人の訪問や、外出、時には外泊で関係が途切れないよう支援しています。	友達や知人の来訪時には、居室や居間から離れた談話コーナーでゆっくり、心地よく過ごせるように配慮している。利用者の行きたい馴染みの場所を聞きだし、墓参り、買い物、外食など、家族と職員が協力して楽しみごとを継続できるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者全員の会話が弾むように席や家具の配置や季節感が味わえる飾り付けを工夫し、楽しく快適に過ごせるような環境作りを支援しています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や、施設へのお見舞いや、様子を見に訪問し、相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から希望をお聞きし、困難な方には家族からの情報や日々の生活アセスメントを基に意向の把握に努めます。	センター方式のアセスメントシートを活用し、利用者の新しい情報を日付とともに追加して介護計画の参考にしている。誕生日には、本人の意向が叶えられるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族の話と、過去歴を参考にすると共に、センター方式のアセスメントを行い把握に努めます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りと記録をもとに、アセスメントしながら現状の把握に努めます。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所前に本人が生活していた関係者と話し合い、意見・アイデアを反映し、スタッフ全員でケアプランを作成しています。	介護計画の見直しは担当職員が3か月期間で前回の計画書を基に評価し、家族の意見を反映させて原案を作成している。カンファレンスで確認し、計画作成者の下で更新計画を完成させている。日々の記録は介護計画に連動して記載し、見直し時に取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は、細かく記入し、スタッフ全員が利用者の情報を共有し、それをプラン作成やケアに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外部での理美容サービスを希望される利用者や家族は個別に利用されています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	情報誌の活用やボランティアの協力で、本人が安全に、生活を楽しむ事ができるように支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人及び家族の希望を大切にし、協力し適切な医療を得られるよう支援しています。	併設している協力病院の受診を希望する利用者が多く、通院は職員が同行している。内科・歯科以外の専門的な受診やかかりつけ医を継続する場合は、家族と相談して受診先を決めている。受診結果は個人毎に管理し、家族、職員と経過を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は日常的に利用者の健康状態を観察し、看護師であるホーム長に報告して、適切な受診や看護を受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日常的に病院関係者との情報交換や相談に努めています。入院先の病院へ訪問やカンファレンスに参加して、利用者や家族が安心できる体制を作っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所相談時に、本人・家族と十分話し合い、本人の意思が尊重できる方針を立て、関係者と共有し支援に取り組んでいます。又、本人の状況の変化に伴い都度、話し合いを行っています。	医療行為が継続する場合は対応が難しいことを利用開始時に説明している。重要項目の体調変化の受診時の項目に、重度化や終末期の考えを加えて同意を得たいと考えている。その都度、主治医の判断の下で関係者と方針を確認し、受診記録に記載している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルをもとに急変時にはどう動けばいいか、を常にシミュレーションし、業務にあたっています。職員は応急手当、初期対応、AED等の研修を受け実践力を身に付けています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者に参加してもらいながら、年2回の避難訓練を行っています。非常用の備蓄品も備えています。職員は防火体験や研修を受け実践力を身に付けています。	消防署立会いの下、夜間を想定した避難訓練を隣の病院職員も参加して実施している。職員は防災センターで訓練を受講し、伝達講習で消防署のチェックシートを活用し、地震などの避難の方法を確認している。法人内で夜間や緊急時の協力体制と災害備蓄品類を整備し、停電時の対応を協議している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	視線を低くして、話や希望を否定せず、静かに傾聴し、自尊心に配慮した言葉かけや対応をしています。	命令調や馴れ合い的な話しかけにならないように配慮している。申し送り時は名前をアルファベットで表現し、記録類は他者に見えないように記録して適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でコミュニケーションをとりながら信頼関係を築き、利用者が思いや希望を表現したり、自己決定しやすい環境づくりに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの楽しみや希望を把握し、その人らしいペースに合わせた一日を過ごせるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的にヘアカットをしたり、好みの服装をして、お化粧品やネイルなどおしゃれを楽しみ、その人らしさが表現できるように支援しています。		

グループホーム 春桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮をむいたり、食後の食器を拭いたり、利用者と職員と一緒にしています。	食材業者の献立を基本に、利用者の状況に応じて食材を活かし、ユニット毎に献立を変更したり調理方法を工夫する事もある。個別の外食に出かけたり、玄関前のベンチで食事を楽しむ事もある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を使い、常にチェックし、一人ひとりの水分量が確保できるように支援しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員の役割分担を決め、毎食後一人ひとりの口腔ケアをサポートしています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの状態に合わせて、声掛けや介助を、自尊心や羞恥心に配慮して行っています。	全員の排泄を記録して、個々に応じて声かけを行っている。昼夜共にトイレでの排泄を基本にしているが、歩行状態や睡眠状態で、夜間のみポータブルトイレを使用したり、リハビリパンツの交換などで対応する場合もある。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつや食事にヨーグルトやオリゴ糖、又野菜を多く使う等しています。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間は決まっていますが、一人ひとりが好みの石鹸やシャンプーを使い楽しめるようにしています。	毎日午後の時間帯に、週2回以上入浴出来るように支援している。希望に応じて、午前や夕方の方の入浴に対応する事もある。入浴を拒否した時、浴室の出窓に花を飾ったり、花卉の入浴剤などを使う工夫で入浴が出来るようになった利用者もいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	高齢の方等は、特にいつでも体を休めてもらえるよう支援しています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフは一人ひとりの薬の目的等を把握しており、症状に変化のある時は速やかに対処しています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	スタッフは一人ひとりの楽しみや役割を知り、役立てるような場面作りをしています。			

グループホーム 春桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩は、その日の希望に沿って出かけるよう支援し努めています。その他家族の協力を得て外出し、食事や買い物をされたり、温泉やカラオケ、時々外泊もされています。	天気の良い日は、近隣や玄関前の花畑、病院の中庭などに散歩に出かけている。個別支援で、買い物やカラオケに出かける事もある。年間行事として、お花見と紅葉見学に各ユニット毎に出かけている。冬季も、雪祭りを車窓から見学したり、買い物などに出かけて外気に触れる機会を作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの能力に応じてお金を所持したり、使えるようにしています。買い物等の希望がある時は同行し、支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話や手紙のやりとりが出来るよう支援し、本人が電話を掛けられない時は介助しています。年賀状を一緒に手作りして家族や知人に出しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は安全と安心に配慮して居心地の良い場所を作るよう心掛けています。季節の花や、季節ごとの飾りをしつらえ、行事の写真を壁に貼り見て頂けるよう工夫しています。	大きな窓に面した廊下は広々とした造りで、居間や食堂も明るく開放感があり、居心地よく過ごせる空間になっている。廊下の端にソファとテーブルを配置して談話コーナーにしたり、ベンチや椅子などを数か所に置くなど、好きな場所でゆっくり寛げるように各ユニット毎に工夫している。廊下には、季節の装飾や写真が品良く飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル、食卓椅子等の配置を考え、工夫して一人ひとりがくつろげる場所や、気の合った者同士が座りお茶を飲み、テレビを観たり話ができるよう工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の大切な物や馴染みの物、写真等を居室に置いたり飾り、居心地良く過ごせるよう工夫しています。	各居室の入り口には、ガラス扉付きの飾り棚があり、縫いぐるみや花などを飾っている部屋もある。鏡台や机など使い慣れた物を持って来たり、出窓に鉢植えの花を飾るなど、その人らしい居室で落ち着いて過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は見通し良く、手摺もあり、歩きやすくなっています。又、廊下の幅が広く車いす同志の交差も十分にできます。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0110510476		
法人名	医療法人中山会		
事業所名	グループホーム春桜		
所在地	札幌市厚別区「厚別東3条6丁目1-5		
自己評価作成日	平成25年10月1日	評価結果市町村受理日	平成26年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「1F ユニット」に同じ

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0110510476-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年10月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(2F アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作り、管理職と職員はその理念を共有し、日々のケアの実践に繋げています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の人たちとの交流を図る為、挨拶の励行や行事等が催される時には、回覧板等でお知らせしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の方々の見学会を行い、認知症の人の理解や支援の方法を理解してもらう様努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の内容をカンファレンスで報告し、サービス向上に活かす様努めています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	札幌市の届け出には直接市役所を訪ね、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝え、協力関係を築くよう取り組んでいます。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及びすべての職員は身体拘束をしないケアを実践しています。施錠については危険と判断した時のみ行う様にしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法等についての研修を受けた者が、カンファレンスで発表し学んでいます。又利用者の日々の言動や身体チェックを行っています。		

グループホーム 春桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について研修があれば参加し、理解するように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、契約に際しては利用者や家族の理解や納得を図っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の中で利用者や家族の代表から意見を受けています。また日々の利用者の言葉や態度から思いを察する努力をおこなっています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスやリーダー会議で出された意見や提案を聞き、反映するよう努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ステップアップシステムを導入し、やりがいや向上心を持って働ける様環境整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を確保するよう努めています。研修案内をスタッフルームに張り出し、職員の自発性も促しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ地域のグループホーム管理者会議・ケアマネージャー会議・勉強会に参加しネットワーク作りの取り組みをしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所する前に必ずホームの見学をして頂き、ご本人・ご家族の意見要望を聞く様にしていきます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学の段階で、本人や家族の話を十分に聞き、質問等には丁寧にこたえています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が何を支援・サービスして欲しいのか、本人・家族とよく話し合い、必要としている支援・サービス利用の対応を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人の出来ない事や困っている事は援助し、時には教えて頂きながら暮らしを共にする様に心掛けています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と常に連携をとり、協力関係を築ける様、話し合いをしながら共に本人を支える努力をしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の意見を尊重し、馴染みの人の訪問や外出をして頂き、関係が途切れない様支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の特性を踏まえ、楽しく生活できる様席の配置を工夫したり、スムーズに会話ができる様支援しています。		

グループホーム 春桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先へお見舞いに行ったり、時には相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何かお話ししたい様子や状況の把握に努め、如何したらそのようになれるのかを、本人と検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族の話を参考にするとともに、センター方式を用いて把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの現状が日によって違う事が多く、日々記録をもとにアセスメントしながら現状の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所前の関係者との話し合いや記録を参考にし、その中から出たアイデアや意見を反映し、スタッフ全員でプランを作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア時に気付いた事等、個人記録に細かく記入しながら、ケアやプラン作成に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりを支える為、日々予想外の出来事や介護計画以外でも、必要な介護援助を柔軟に取り入れています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	情報誌の活用やボランティアの活用など、施設内での活動のみにとらわれず、安全で豊かな暮らしを楽しまれる様支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人及び家族の希望を重視し、適切な医療を受けられる様支援しています。		

グループホーム 春桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師であるホーム長に各利用者の健康状態に変化があれば報告・相談し、急変時の連絡体制も整えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日常的に病院関係者と情報交換をし相談に努めています。入院先の病院等のカンファレンスに参加し、利用者や家族が安心できる体制を作っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所相談時に事業所の出来る事や支援の状態を説明しています。入所後もケアプラン説明時や訪問時に家族と話し合い、本人の意見が尊重出来る方針を共有し、関係者と共に支援に取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを基に急変時にはどう動けば良いかをシミュレーションし業務に当たっています。職員は応急手当や初期対応の研修を受け、実践力を身につけています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、利用者にも参加してもらい実行しています。運営推進会議の中で地域との協力体制を築いています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの認知状態をスタッフが共有し、トイレ誘導や入浴時には特に注意をし言葉掛けや対応をしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定出来る様な言葉掛けを行っています。日頃から思いや希望を聞き取る努力をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはありますが、一人ひとりの体調状態により柔軟に対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類や整容の乱れをさりげなくサポートしています。洋服は自分で選べる場合は本人に任せ、出来ない時には職員が準備し支援しています。		

グループホーム 春桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日や行事には一人ひとりの好みのメニューを取り入れています。出来る人にはお手伝いをお願いしています。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの取れたメニューに準じ調理をしています。一人ひとりの食事量・水分量は常にチェックし、状態に応じた支援をしています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、特変があればすぐに歯科受診しています。定期検診も行っています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の状態に応じて、布パンツ・紙パンツ・パット等に使い分けており、排泄チェック表の記録を行い、パターンを把握し自立に向けた支援をしています。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	アクティビティに運動を取り入れたり散歩等を行っています。常に排便チェックを行い、便秘の予防に努めています。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	拒否のある場合は無理をせず次回の入浴としますが、1週間に2回は必ず入浴できるようにしています。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の温度調節をしたり、寝具の調節を行い安眠できる様にしています。日中はそれぞれ気に入った場所で過ごして頂いています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋を常に目に付き易い場所に設置し、職員が情報を共有しています。賞状の変化の確認は特に気を使っています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式のアセスメントから、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等を図っています。			

グループホーム 春桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力を得て趣味である写真撮影や散歩をされたり、外食やお茶を共にされたりしています。季節に応じ花見・紅葉見学などに出掛けています。日常でも天気の良い日には前庭や中庭へ散歩に出掛けています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に応じてお金を所持したり、使える様にしています。買物希望時は同行し支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ電話や手紙のやり取りを自由に行って頂いています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は安心と安全に注意し、居心地の良い場所づくりの工夫をしています。季節の花や、行事の写真などを壁に貼り楽しんで頂いています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子の配置を工夫し、一人ひとりがくつろげる居場所づくりの工夫をしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みや趣味の物を居室戸口のケースに入れて頂いたり、家族にお願いし馴染みのある家具などを配置して頂く様にしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は見通しの良い作りになっています。歩行器・車イスの方も利用しやすい様な作りです。手摺も使いやすい様に工夫をしています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0110510476		
法人名	医療法人中山会		
事業所名	グループホーム春桜		
所在地	札幌市厚別区「厚別東3条6丁目1-5		
自己評価作成日	平成25年10月1日	評価結果市町村受理日	平成26年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「1F ユニット」に同じ

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0110510476-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年10月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(3Fアウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を共有し、日々のケア実践に繋げています。毎日の申し送りやカンファレンスの際に読み上げを行っています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の人たちとの交流を図る為、挨拶の施行や行事等を回覧で、お知らせしています。地域の学校等の行事参加をしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の方々の見学会を行い、認知症の理解や支援の方法を伝えています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催している運営推進会議の中で、事業所行事や生活の様子、防災の取り組みを報告し、意見を頂き、その内容をカンファレンスの中で職員に周知しサービス向上に努めています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	札幌市への届け出には直接市役所を訪ね、事業所の現状の報告、ケアサービスの取り組みを伝え、協力関係を築くよう取り組んでいます。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルに沿い具体的な行為を理解するよう努めています。玄関・非常口・階段口のドアは様々な危険リスクと防犯の為、時間を決め施錠しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加した職員が、カンファレンスで発表し、資料を回覧することで認識を強め、虐待のないホーム作りに努めています。入浴時の身体チェックや日々の言動の変化に気を配っています。		

グループホーム 春桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての研修があれば参加し、理解するように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明に十分な時間を取り、利用者・ご家族の理解や納得をはかっています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の中で家族の代表から意見を受けています。また利用者さんの日々の言動から思いを察する努力をし、運営に反映するよう努めています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、カンファレンスやリーダー会議で出された意見や提案を聞き、運営に反映するよう努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ステップアップシステムという人事考課制度があり、自己評価、面談を行い、やりがいや向上心を持って働ける様な職場環境を整えています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加できる体制を取っており、職員は働きながら、介護福祉士や介護支援専門員の資格を取得する人が多い。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、厚別区のグループホーム管理者会議・ケアマネージャー会議・勉強会に参加している。職員は厚別区グループホーム合同研修に参加しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に必ずホームの見学をしていただき、面談を実施して本人や家族から情報を得るようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学の段階で本人や家族の話しを充分に聞くほか、センター方式シートの利用で家族の関係を理解し、不安や要望に耳を傾けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の希望する支援やサービスについてよく話し合い、必要としているものの対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、本人の出来ない事や困っている事は援助し、時には教えて頂きながら暮らしを共にするよう努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と常に連携をとり、協力関係をきずくよう努めています。個人記録を開示しホームでの生活の様子を報告しています。行事等に参加して頂き、家族と共に本人を支えていく様努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望や意見を尊重し、馴染みの人の訪問や、外出・外泊を行っています。自宅や馴染みの美容室等家族と協力体制を取り行っています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わりを大切にし、楽しく共同生活ができる為に、座席の配置を工夫したり、スムーズな会話がとれるよう職員の関わりを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、入院先への面会や、病状の確認等を可能な限り行っています。必要に応じて相談・支援に繋げています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から、一人ひとりの思いを受け止め対応しています。意思表示の困難な方には表情や言動等から把握し、センター方式を活用しながらカンファレンスにて検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、馴染みの暮らし方・生活環境等の情報を家族に記入していただいています。又本人・家族の話しからも把握するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に毎日記録し、現状の把握に努めています。毎日の申し送りでは状態の変化等の情報の共有を行っています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランは3カ月ごとに直しを行い、本人・家族の希望や意見を聞きながら作成しています。毎月のカンファレンスにて検討し、職員全員で作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に毎日記録し、生活の様子・バイタルチェック・食量・排泄チェック等の体調の変化の情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりを支える為に、ニーズに合った柔軟なサービスを提供するように努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを安全で豊かな生活にする為、ボランティア等の地域資源を活用しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	受診は本人・家族の希望するかかりつけ医を利用してもらいます。心身の状況の変化に応じて適切な医療を受けられるよう支援しています。		

グループホーム 春桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師であるホーム長に、利用者の体調状態を報告し、変化があれば速やかな対応を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のカンファレンス等に参加したり、日常的に医療機関との情報交換を行ない、利用者が安心して治療し早期に退院出来る様支援しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所相談時に医療連携体制と、重度化した時の事業所の支援状態を説明しています。終末期のあり方について、本人・家族の希望を尊重出来る方針を共有し、関係者と共に支援に取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルや緊急連絡網を作成し、急変時や事故発生に速やかに対応出来る体制を整えています。AEDを設置し、定期的に講習を受けています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い、利用者にも参加してもらい実施しています。防災センターでの煙体験等を職員全員で経験し火災・地震・災害に備えています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの認知状態を職員が共有し、トイレ誘導や入浴時には特に注意し対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の言動から思いや希望を理解し、自己決定出来る様な言葉かけをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはありますが、一人ひとりの体調や希望に沿った対応をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを尊重し好みの服や整容を行えるよう支援しています。		

グループホーム 春桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事や誕生日には、一人ひとりの好みのメニューを取り入れています。利用者と職員が一緒に調理・盛り付け・配ぜん準備を行い、食事を楽しんでいます。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの取れたメニューに準じ調理をしています。一人ひとりの食事量・水分量を常にチェックし、状態に応じた対応をしています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態に合った方法で口腔ケアを行っています。特変があれば歯科受診を行っています。定期的な歯科検診も行っています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状態を記録し、トイレ誘導やパット確認を行っています。状態に応じてパンツやパット等を使い分け、自立にむけた支援をしています。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維や水分摂取を心がけ、一人ひとりの体力に合わせて、運動・散歩を行い、便秘予防に取り組んでいます。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの好みに応じて、お湯の温度や時間・声掛けのタイミングに配慮し、実施しています。拒否のある時は、無理強いせず本人の楽しめる状態のアセスメントを行い、職員のチームワークで支援します。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を尊重し、日中はそれぞれの好みの場所で過ごしてもらい、夜間は安心して眠れる様、温度・湿度の調節や寝具の工夫を行っています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の情報をファイルし、職員が情報を共有しています。誤薬防止の為服薬時に名前確認を2人の職員で行っています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの状態をアセスメントし、生活歴や力を活かした役割や楽しみ事を行っています。			

グループホーム 春桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調に考慮し、一人ひとりの希望にそい、散歩・買い物等に出かける様支援しています。かぞくの協力を得ながら外泊・墓参り等でかけられる様支援しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に応じてお金を所持したり、使える様にしています。買い物希望時は同行し支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話や手紙のやり取りを自由に行えるよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は安全と安心に配慮し、居心地の良い場所作りをしています。季節の花を飾り行事の写真等を壁に貼り本人・家族共に楽しめる様工夫しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの配置を工夫し、一人ひとりがくつろげる場所や気の合う人同士が座りテレビを観たりお茶を飲んだり出来る様にしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みや趣味の物を居室戸口のケースに入れて頂いたり、使い慣れた家具・生活用品を配置して、居心地良く過ごせるよう工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーで、歩行の不安定な方にも安心な造りになっています。廊下・トイレ・浴室には手摺があり、名前の表札を付けて自立した生活の工夫をしています。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム 春桜

作成日：平成 26年 2月 13日

市町村受理日：平成 26年 2月 13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議は定期的に行っていますが、参加者は家族の代表者となっている。	家族に事前の案内と共にテーマの意見をいただき、より多くの家族参加のもと、意見・情報交換の場として会議運営を行う。	運営推進会議の事前案内の時に希望する内容を記載していただき、テーマを決める。母体病院の資源を利用した講演等も含め検討し取り組む。	12か月
2	10	家族アンケートを検討中だが、実行していない。	率直な意見をいただく方法でアンケートを行い、さらなるサービスに活かす。	家族アンケートは、母体病院の窓口で収集し、質問内容もより具体的なものとし、サービスに活かせるものとする。又アンケート結果も公表し、次回アンケートの参考とする。	12か月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。